

## Index

### 電子契約システムとは

### 書面契約と電子契約の違い

### 書面契約

### 電子契約

### 電子契約のメリット・デメリット

### 電子契約のメリット

### 電子契約のデメリット

### 人気の電子契約システム3選

### 電子署名ビジネスの中で世界最大手の「ドキュサイン」

### 弁護士ドットコム運営の電子契約サービス「クラウドサイン」

### GMOが運営する電子契約システムサービス「Agree」

### 電子契約システムを選ぶ際に注目すべき3つのポイント

### 用途に合わせたシステムであるか

### セキュリティが万全であるか

### 費用に見合った効果が見込めるか

### 電子契約導入の際の注意点

### 法律で書面での交付を求められるものが一部存在する

### 相手方に手間やコストが発生する可能性がある

### 電子契約の導入にあたり注意すべき法律

### 民法第522条

### 電子署名法

### 電子帳簿保存法

### まずは電子契約サービスの比較に着手

## 電子契約システムとは



電子契約システムとは、契約書をはじめとするさまざまな書面を取り交わす際に、すべてのプロセスをクラウド上でおこなうことを意味します。

従来の方法は、書面を印刷し印鑑を押印もしくはサインしてもらうことで、契約の締結などの重要な取引をおこなってきました。一方、電子契約ではこれらのやりとりを廃止し、完全にペーパーレスでやりとりするため、手続きの簡略化や業務効率向上に繋がります。電子契約システムを導入することには、さまざまなメリットがあります。そのため、多くの企業が電子契約システムを取り入れており、今では「契約書には印鑑押印」のイメージは薄れつつあるのが現状です。

[ペーパーレスについて詳しく知りたい方はこちら](#)

## 書面契約と電子契約の違い

電子契約システムを導入するメリットを解説する前に、まずは書面契約と電子契約の違いをご説明します。

### 書面契約

書面契約とは、書面という言葉通り、紙を使用して契約を締結することです。間違いなく契約者本人が合意したという証拠を残すため、書面には署名や押印を行います。不動産の購入など、重要な契約の場合には、印鑑証明を持参し、印鑑が契約者本人のものであると証明した上で押印を行います。万が一、契約締結後になりすましや改ざんが疑われた場合には、署名の筆跡鑑定や、印影の鑑定を行い、契約書の真正性を証明します。

### 電子契約

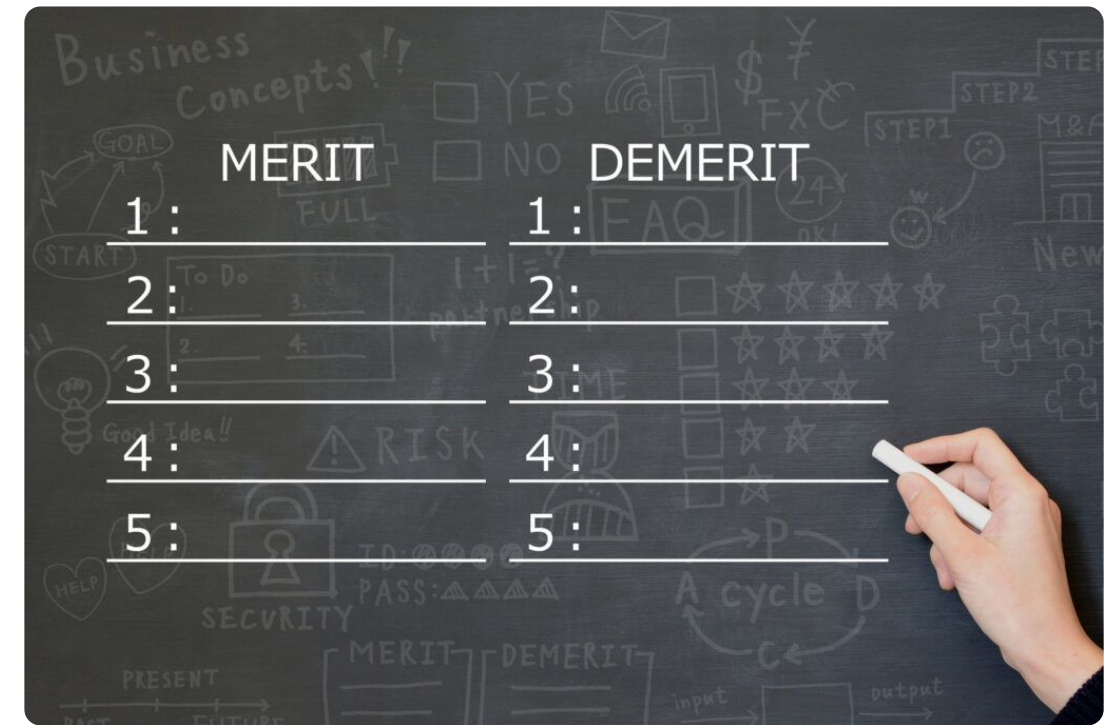
電子契約とは、電子データを使用して契約を締結することです。間違いなく契約者本人が合意したという証拠を残すためには、電子署名という仕組みを使用します。電子署名とは、暗号技術を用いて、電子契約書の作成者や、電子契約書が改ざんされていないことを証明する仕組みです。高度な暗号技術を用いているため、契約者以外が電子契約書を受け取ったり、改ざんしたりした場合にはすぐに判明します。

多くの電子契約サービスは、電子署名の仕組みについて理解していなくても、簡単に利用できるように設計されています。

書面契約と電子契約の違い　まとめ

	書面契約	電子契約
形式	紙書類	電子データ
証拠能力を持つもの	署名、印影	電子署名

## 電子契約のメリット・デメリット



電子契約システムを導入することで、具体的にはどのようなメリットが得られるのでしょうか。本章では、電子契約システムをより深く理解するために、電子契約のメリットとデメリットをご説明します。

### 電子契約のメリット

はじめに電子契約システムを利用するメリットについてご説明します。

#### コストが削減できる

電子契約システムを導入することはコスト削減に繋がります。書面でのやりとりにおいては、その紙代や書類の郵送費、印刷代など様々なコストがかかりますが、電子契約システムを使用すると、書面でのやりとりが一切なくなるため、大幅なコストカットが実現できます。

特に、収入印紙は金額としても大きく、例えば300万円を超える契約においては1,000円の収入印紙、500万円を超える契約においては2,000円の収入印紙が必要になるため大きな支出と言えます。収入印紙は紙媒体での書面契約においては必要ですが、電子契約においては不要となるため、この違いはかなり大きいと言えます。

また、書面でのやりとりには、文書の準備や郵送する人件費もかかります。一方、電子契約システムがあれば、書面の取り交わしにかかる人件費の部分も削減することが可能です。

[コスト削減について詳しく知りたい方はこちら](#)

## 業務効率化に繋がる

書面で契約を交わす場合には、原本と写しを別々に作成するなど、多くの作業が必要となります。また、過去の契約書を確認する際に、膨大な書類の中から探し出すのには長い時間がかかります。

電子契約システムを導入していれば、書類の管理もすべてクラウド上でデータ化された状態となっているため、検索により即座に確認したい書類を探し出すことが可能です。また、紙書類を保存する場所の確保も必要なくなり、スペースの有効活用にもなるでしょう。

[業務効率化について詳しく知りたい方はこちら](#)

## コンプライアンス強化に繋がる

契約書を書面で取り交わす際には、その書面が不正に複製されたり改ざんされたりするリスクがあります。しかし、電子契約システムにおいては、複製・改ざんリスクを下げることができます。なぜなら、データ管理される電子契約は、不正にアクセスするとその証跡が残るからです。社内の誰が何の変更をどの書面に加えたかも一目瞭然です。

## 電子契約のデメリット

つづいて電子契約システムを利用するデメリットについてご説明します。

### 契約書によっては電子契約が認められないケースがある

訪問販売や電話勧誘販売など特定の契約においては、電子化が認められていません。この場合は必ず契約書を書面で取り交わす必要があります。

### 導入時は業務内容が大幅に変わるため混乱を招きやすい



電子契約システムを導入する場合、社内の業務フローが大幅に変わります。慣れてしまえば効率的でメリットの多い電子契約システムですが、初めのうちはこれまでの業務との違いに混乱してしまう従業員も多いでしょう。

導入する際には、担当者に対して新しいフローについて説明をする場を設け、スムーズに移行できるようにする必要があります。

## 取引先の理解を得にくい場合がある

取引先によっては、契約時に書面に押印する形式でなければ”契約しない”というケースもあるでしょう。一般的になりつつある電子契約システムですが、取引先によっては理解を得られない場合があります。導入の際には取引先の理解を得るために、システムについて説明しメリットを分かりやすく伝える必要があります。

## 人気の電子契約システム3選



契約は重要で、詳細を記録として残しておく必要があります。だからこそ、信頼できる電子契約システムを選びたいところです。ここでは、人気の電子契約システムを3つ紹介します。

## 電子署名ビジネスの中で世界最大手の「ドキュサイン」

ドキュサインは電子署名のビジネスで世界最大手のサービスです。世界中に37万社の顧客があり、その利用者の数が他のサービスと比較しても群を抜いて多いのが特徴です。世界的に有名な製薬会社やテクノロジー企業が利用しており、そのサービスがいかに信頼できるものであるかを物語っています。

ドキュサインのサービスはクラウド上に構築されており、スマホやパソコンなどのデバイスから簡単に使用することが可能です。セキュリティがかなり強化されている点も人気の

理由。向上心を持ち研究開発に力を入れているドキュサインは、常に進化し続ける世界最大手の電子署名サービスとして多くの企業に利用されています。



## ▶[DocuSignの詳細はこちら](#)

### 弁護士ドットコム運営の電子契約サービス「クラウドサイン」

クラウドサインは弁護士ドットコムが運営する電子契約サービスです。弁護士ドットコムが運営していることで、利用者は安心してサービスを利用することができます。

テンプレート、権限管理、API連携などがスタンダードプランで利用できる点も人気の理由です。また、クラウドサインは電子契約サービスにおいて累計登録者数がナンバーワンで、非常に多くの利用者がこのサービスを利用していることが分かります。

参考：<https://www.cloudsign.jp/>

[電子署名について詳しく知りたい方はこちら](#)

### GMOが運営する電子契約システムサービス「Agree」

導入実績が1,000社を越えるAgreeの特徴は、大手企業や政府機関が利用するグローバルサインと直接連携できる点にあります。証拠力が高いと言われるハイブリッド署名を使用した実印版と、安価な認印版を選択することができる点も人気の理由です。

また、有料で紙の契約書をデータ化する作業の代行サービスがあるため、過去分の契約書も合わせてクラウド保管することができます。

参考：<https://www.gmo-agree.com/>

## 電子契約システムを選ぶ際に注目すべき3つのポイント



たくさんの電子契約システムの中から、自社にあったシステムを選ぶためには何に注目すればよいのでしょうか。ここでは、電子契約システムを選ぶ際に注目すべきポイントを3つご紹介します。

### 用途に合わせたシステムであるか

電子契約システムはサービス提供会社によって特徴が異なるため、どのような目的で使用するのかを明確にし、目的に合ったシステムを選びましょう。システムにメリットがあったとしても、そのメリットが実際に使用する用途と関係のないものであれば導入する意味はありません。仮に、契約相手が書面での契約しか対応しないとなれば、電子契約システムを導入しても活用する場面がなく無駄になってしまいます。

### セキュリティが万全であるか

電子契約システムにおいてとても重要なのがセキュリティです。セキュリティが万全でなければ、サイバー攻撃に遭うリスクが高まります。セキュリティが弱いと、大切なデータが一瞬で消滅してしまうなどの甚大な被害を受けることも考えられます。セキュリティを重視してシステムを選びましょう。

### 費用に見合った効果が見込めるか

電子契約システム導入には費用がかかります。どのシステムを導入するかでその費用は大きく異なります。システムを選ぶ際には、投資する金額に見合った費用対効果が得られるのかを考えましょう。

### 電子契約導入の際の注意点